

令和3年松本市議会2月定例会
市長閉会あいさつ

[3.3.19(金)PM1:30]

発言の機会をいただきましたので、閉会に当たりまして、ご挨拶を申し上げます。

議員の皆様には、24日間の会期中、熱心なご審議を賜り、「松本市基本構想2030」を始め、中核市関連条例、組織条例、令和3年度当初予算、教育長の人事案件などを可決、同意していただきました。厚く御礼を申し上げます。

基本構想2030は、これまでの基本構想と異なり、市民と行政が共通の理念のもとに、具体的な行動を起こすことを目指しています。

そのベースとなる理念は、一人ひとりが日々の暮らしの中で、豊かさや幸せに挑み続け、三ガク都に象徴される松本らしさをシンカさせることあります。

「みとめ」、「まなび」、「いかし」、「つなぎ」、「いどむ」という5つの行動をループのように繰り返し、自然環境、芸術文化、教育風土を最大限生かした持続可能な循環型社会を市民の皆様さんとともにつくっていくことが目標です。

そのための行政の役割、具体的な取組みを定める、今後5年間の第11次基本計画は、新年度のできるだけ早い時期に示し、議会の皆様にご協議をお願いいたします。

松本市は来月1日から中核市に移行し、市役所の組織体制を刷新いたします。コロナ、デジタル、ゼロカーボン、時代が転換期にあるという認識に立って、未来を先取りする政策に果敢に取り組む、多様化する市民のニーズに的確に対応するための再編であります。

部局横断の体制で、政策実現のスピードを上げる、住民自治の支援力を強化し地域の課題解決を図る、社会や産業の構造変化に即した事業を遂行する、こうした3点に基づいた新たな組織体制と併せて、職員の意識の醸成を図り、三ガク都のシンカと市民サービスの向上に取り組んでまいります。

1年前に出現した新型コロナウイルスは、今なお、私たちの日常に影を落としています。まだ当分は、感染拡大のリスクと向き合いながらの生活が続いていきます。

そうした中で感染収束の鍵を握るワクチンの接種が、来月後半から本格的に始まります。集団接種の公開シミュレーションを行うなどして、課題を洗い出し、安心・安全で、円滑な接種の実施に努めてまいります。

4月1日午前0時以降は、松本市民や市内滞在者で、感染が疑われる場合のご相談は、「松本市新型コロナウイルス感染症受診相談センター」でお受けします。そして陽性者が判明した際には、新設する松本市保健所が、患者や濃厚接触者の調

査、入院療養の調整などを担っていきます。

松本市ではもう一つ、4月1日から開始する取り組みがあります。

LGBTQ、性的少数者の方などのカップルを結婚に相当する関係と認める、パートナーシップ宣誓制度です。

長野県の自治体では初めてとなりますが、一人ひとりの個性が尊重される社会、多様性を認め合う社会を実現するために、意義のある制度と捉え、導入を決めました。

一昨日、同性婚を認めない民法や戸籍法の規定が「法の下での平等」を定めた憲法14条に違反するという初めての司法判断が示されました。

判決の背景には、自治体のパートナーシップ制度の広がりがあると指摘されています。

松本市は、この制度をスタートに、性的少数者の方々の存在や権利に対する市民の理解を広げ、民間企業にも制度に即した対応を働きかけ、誰もがありのままに暮らせるまちを目指していきます。

市長就任から1年、定例と臨時を合わせて8回の議会を開催していただきました。

この間、自分なりに行政と議会のあるべき姿に思いをいたし、時に厳しいご指摘をいただきながら、市政運営に取り組んでまいりました。

今回、令和3年度当初予算が、一部修正の上で可決されたことを受けまして、減額修正となったアルプス公園の整備事業費の一部については、議会からいただいたご意見を踏まえ、改めて対応を検討してまいります。

また、附帯決議のあった、松枯れ対策事業費の樹幹注入関係経費の執行についても、森林再生検討会議からの提言を踏まえ、適切に対応してまいります。

最後に、今月末をもって退任される赤羽教育長、定年退職する部局長に、議会のご配慮で、挨拶の機会をいただき、誠にありがとうございました。

赤羽教育長におかれましては、平成27年から2期6年にわたり、松本市の教育行政の発展に多大なご尽力をいただきました。改めて深く感謝を申し上げます。

部局長を始め、3月末で退職する職員の皆さんは、長い間、それぞれの立場で、市民のために職責を全うされました。そのご尽力に心から感謝を申し上げます。

議員の皆様には、季節の変わり目に、健康にご留意をしていただき、引き続き、松本市の発展にご協力を賜りますようお願いを申し上げます。閉会に当たったの挨拶といたします。ありがとうございました。

(以上)